

料金後納
郵便

BANDO DOING MORE on the new frontier

株主の皆様へ

バンドー化学株式会社

平成21年3月期 第1四半期（連結）

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
事務取扱場所 大阪市北区堂島浜一丁目1番5号
☎0120-094-777（通話料無料）

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
返送先 〒540-8694 大阪東支店私書箱第455号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

まずこちらを

開く 濡れている場合は乾かしてから
はがしてください

■ 配当状況

	1株当たり配当金（円） （うち記念配当）					配当金総額 （年間） （百万円）	配当性向 （連結） （%）	純資産 配当率 （連結） （%）
	第1 四半期末	中間期末	第3 四半期末	期末	年間			
2009年3月	- （-）	5.00 （予想）	- （-）	5.00 （予想）	10.00 （予想）	/	29.5	/
2008年3月	-	5.00	-	5.00	10.00	1,003	19.0	2.3
2007年3月	-	4.00	-	6.00	10.00	1,012	25.4	2.5

■ 会社概要

社名 バンドー化学株式会社
Bando Chemical Industries, Ltd.
創業 1906年（明治39年）4月14日
設立 1937年（昭和12年）1月7日
本店 神戸市兵庫区明和通3丁目2番15号
本社事務所 神戸市中央区港島南町4丁目6番6号
TEL (078) 304-2923
従業員数 1,343名（平成20年3月31日現在）
ホームページアドレス <http://www.bando.co.jp>

■ 事業所

東京支店、名古屋支店、大阪支店
加古川工場、南海工場（大阪府泉南市）、和歌山工場、神戸工場、足利工場
生産技術センター（神戸市）、R&Dセンター（神戸市）、伝動技術研究所（和歌山県）

BANDO

<http://www.bando.co.jp>

■ 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
剰余金配当の基準日 期末 毎年3月31日
中間 毎年9月30日
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 〒530-0004
（お問い合わせ先） 大阪市北区堂島浜1丁目1番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
TEL（通話料無料）0120-094-777
同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国本支店
野村證券株式会社 全国本支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行株式会社の電話およびインターネットでも24時間承っております。

TEL（通話料無料） 0120-244-479（本店証券代行部）
0120-684-479（大阪証券代行部）

ホームページアドレス <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

公告掲載新聞 日本経済新聞・神戸新聞
上場証券取引所 東京（第1部）・大阪（第1部）

単元未満株式ご所有の株主様へ

単元未満株式（1株～999株）は、単元株式（当社は1,000株）のように市場で売買することができません。単元未満株式につきましては、市場での売買に代えて、当社に対して単元株式数に不足する数の当社株式を当社から購入する「単元未満株式の買増請求制度」または当社に売却する「単元未満株式の買取請求制度」のいずれかの制度を選択してご利用いただけます。お手続きをご希望の株主様は、当社株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行株式会社）へお問い合わせください。（株券等保管振替制度をご利用の場合は、各株主様のお取引のある証券会社にお問い合わせください。）

本データの記載内容は、平成21年3月期第1四半期決算短信に基づき作成しております。
なお、その後に公表される可能性がある訂正情報や業績予想の修正情報については、本データの記載内容には反映されません。



バンドー化学はチーム・マイナス6%に参加しています

株主の皆様へ

2008年8月
バンドー化学株式会社

株主の皆様には、ますますご清栄のことと心より喜び申し上げます。日頃は格別のご高配に預かり、心から御礼申し上げます。平成21年3月期第1四半期（連結）の概況をご報告いたします。

当第1四半期連結会計期間における当社グループを取り巻く市場環境につきましては、更なる原油価格の上昇などにより、国内の景気の減速傾向がより鮮明になってきており、また、海外におきましても、米国の景気後退が現実味を帯び、それが世界経済に広まること懸念され、今後、更に厳しくなるものと想定されます。

当社グループの第1四半期（連結）の業績につきましては、海外ではアジアを中心に堅調に推移しましたが、国内において市場環境が厳しさを増したことに伴い、次頁（右記）以降のとおり減収減益となりました。また、今後につきましても、原材料価格の高騰などによる影響の拡大に加え、当社グループの主力市場である自動車分野および電子写真出力機器分野において需要が減退方向に向かうなど、市場環境の厳しさは当初の予想を上回っており、連結・単体の業績予想の修正を行っております。

当社グループとして、この状況を厳しく受け止め、グループを挙げて収益改善活動の強化を進めてまいります。また、中期経営計画「DOING MORE on the new frontier」の達成に向けて、コア事業における連結収益力の向上、サブ・コア事業における収益体質の強化、一歩先をいく新製品の開発や新規事業の育成（精密研磨剤、ナノ粒子機能材等）などに取り組むとともに、積極的に営業活動を展開してまいりますので、株主の皆様におかれましては、一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役会長

小林 昭夫



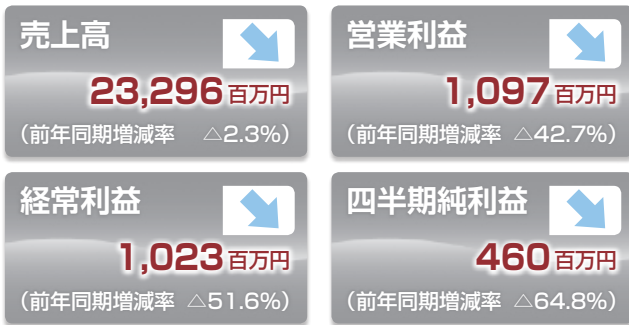
代表取締役社長

谷 和義

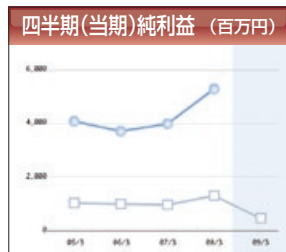
平成21年3月期第1四半期（連結）の概況

（詳細につきましては、当社ホームページ「株主・投資家の皆様へ」掲載の「平成21年3月期第1四半期決算短信」をご覧ください。）

■ 経営成績



郵便はがき



■ 事業のセグメント別売上高の状況



【ベルト・工業用品部門】
 運搬ベルト、海外の産業機械用Vベルトは堅調。電子写真出力機器関連製品が減少。国内の補機駆動用ベルトが減少。



【化成品部門】
 建築資材用フィルムが減少。装飾表示用の粘着加工製品は前年同期並み。



【その他の部門】
 国内子会社における機械器具の販売が増加。

■ 平成21年3月期（通期）の連結の業績予想

(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

第1四半期の業績を勘案し、平成20年5月15日に公表した第2四半期累計会計期間（連結・単体）および通期（連結・単体）の業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、当社ホームページ掲載の平成20年8月4日付「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

(%表示は対前期増減率)

	5月15日発表数値	8月4日発表数値
売上高	99,000百万円 0.3%	95,000百万円 △3.7%
営業利益	7,500百万円 2.4%	5,500百万円 △24.9%
経常利益	7,300百万円 △7.7%	5,500百万円 △30.5%
当期純利益	4,600百万円 △13.0%	3,400百万円 △35.7%
1株当たり当期純利益	45円85銭	33円89銭

実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。